

平成 26 年度 海外研修報告書

日本リハビリテーション医学会 国際委員会

委員長 青木 隆明

海外研修担当委員 井口はるひ

平成 26 年度日本リハビリテーション医学会海外研修助成による研修が終了したので、下記の通り報告する。

〈通常助成〉

坂田 佳子 (東北大学病院内部障害リハビリテーション科)

参加会議名：8th World Congress of the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine

開催地：Cancun, Mexico

参加期間：平成 26 年 6 月 1 日～5 日

発表演題名：Effects of Exercise Training on Renal Function in Salt-Sensitive Hypertensive Rats

発表の成果：我々はこれまでに腎疾患モデル動物を用いて運動の腎障害に対する効果について検討を重ね、いくつかのモデルにおいて運動の腎保護作用を明らかにしてきたが、今回は食塩感受性高血圧モデルラットにおいても運動が腎保護作用を発揮することを明らかにしたのでこれを報告した。腎疾患に対する包括的リハビリテーション、すなわち腎臓リハビリテーションは、慢性腎臓病患者の運動耐容能や QOL を向上させるのみならず、腎障害の進展を抑制し生命予後を改善する積極的な治療法として期待されるが、リハビリテーションの分野としては新しい領域であり、十分に認知されているとは言えない。今回、腎臓リハビリテーションの主体となる運動の腎保護作用の科学的根拠をリハビリテーション領域の最高峰の学会の 1 つである ISPRM にて発表したことにより、腎臓リハビリテーションの有効性や可能性を世界にアピールすることができたと思われる。また、今後の研究の発展の手掛かりを得ることもできた。

若林 秀隆 (横浜市立大学附属市民総合医療センター)

参加会議名：8th World Congress of the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine

開催地：Cancun, Mexico

参加期間：平成 26 年 6 月 1 日～5 日

発表演題名：Dysphagia assessed by the 10-item Eating Assessment Tool is associated with malnutrition in frail elderly

発表の成果：フレイル高齢者では、嚥下機能を評価する自記式質問紙である EAT-10 で評価した誤嚥の有無と低栄養に関連を認めるというポスター発表を行った。今回のポスター発表は E-Poster (電子ポスター) 形式で、発表時間および質疑応答の時間は設定されなかった。口演希望で演題登録を行ったが、ポスター発表に割り振られた。

江西 哲也（徳島大学病院リハビリテーション部）

参加会議名：The 53rd International Spinal Cord Society Annual Scientific Meeting

開催地：Maastricht, The Netherlands

参加期間：平成 26 年 9 月 2 日～ 4 日

発表演題名：Spinal metastasis, mobile ability, and key person living together are predictors of discharge destination for cancer patients

発表の成果：学会では脊髄損傷に対する様々な問題に対して多職種の方が参加し、活発な議論がなされていた。多くの国から参加があり、欧州だけでなく東南アジアの先生方とも、ポスター発表を通じて議論できたことは、今後の臨床においても大変有意義であった。また、国の政策による保険制度の違いも強く感じた。日本からも多くの先生方が本学会に参加されており、日本の著名な先生方と学会中に交流する機会が得られたことはとても有意義であった。今回、徳島大学病院リハビリテーション部から医師だけでなく理学療法士も学会に参加したが、理学療法士も日本だけでなく世界を舞台に活動することを真剣に決意してくれたことは、今後の教室の発展にも意義深いものとなった。今後も、療法士をはじめリハビリテーションに関係する多職種の方と協力し、よりよい医療を患者に提供できるように努力したい。

〈特別助成 Asia-Oceania Conference of Physical and Rehabilitation Medicine 2014〉

藪野 瓦平（りんくう総合医療センター）

発表演題名：Effectiveness of Robotic Assisted Gait Training after Total Hip Replacement
— A Prospective Clinical Study —

*海外研修印象記はリハニュース 65 号に掲載予定です。